

まとめの方法としては、意欲・取材・構想・叙述・推敲の5段階をとっている。意欲（意識）の欄は、書くことについての興味や意欲を出発点に、書く目的意識や必要感を高め、さらに書くことの見方、考え方の広がりや深まりとのかかわりにいたっている。この作文に対する意欲の問題は、表現過程の第一段階

であると同時に、作文能力の全体をおおっているといえる。取材以下推敲までは、表現過程に位置づくように工夫されてあるが、画然としたものではないようである。しかし、それぞれの項目を関連的にとらえ、全体を見通すことに、この一覧表の意味があるように思われる。

＜表1＞ 作文の基本的能力一覧表

学年	過程	意欲(意識)	取材(主題)	構 想	記 述	推 敲
小 1		・書くことに興味をもつ。	・書く事がらを見つける。	・経験したことの順序をたどって書く。	・聞いたり読んだりしたとおりに文を正しく書く。 ・事がらを考えながら、文や文章を書く。 ・文章を書くために必要な文字や語句を身につける。	・書いた文章を読み返す。
小 2		・進んで文章を書くこととする。	・何が書きたいかを考え、それに関する材料を見つける。	・できごとの順序をたどって書く。	・聞いたり読んだりしたとおりに文章を正しく書く。 ・内容がよくわかるように文章を書く。 ・かんたんな説明を入れる。 ・文章を書くために必要な文字や語句を増す。	・書いた文章を読み返し、まちがいに気づく。
小 3		・文章で表現することに意欲をもつ。	・大事なことを落とさないように、書く必要のあることを整理する。 ・書こうとするものをよく見て取材する。	・書く事がらをまとめ、どこにくぎりをつけたらよいか考える。	・語と語、文と文の続き方を考えて書く。 ・ようすや気持ちがよくわかるように書く。 ・かなり長く書く。 ・語句を正しく文章の中で使う。	・書いた文章を読み返し、まちがいを正す。
小 4		・自分の考えをはっきりさせて文章に書き表そうとする。	・書く必要のあることを整理する。	・書こうとするものの中心が明確になるように、段階の分け方、続け方を考える。	・事象を客観的に書き表す。 ・感想や考えをはっきり書き表す。 ・数量的なものも正確に書く。 ・語句を適切に文章の中で使う。	・書いた文章を読み返し、まちがいを正したり、よい文章に書き改めたりする。
小 5		・文章を書く目的や必要感をはっきりもつ。	・主題や要旨を明確にする。 ・必要な事がらを観点ごとに整理する。	・段階をはっきりさせ、段落と段落との関係がわかるように、組み立てをくふうする。	・読み手にふさわしい文体で書く。 ・矛盾、あいまいさのない表現をする。 ・適切なことばづかいで書く。 ・語句の使い方に注意して書く。	・書いた文章を読み返し、叙述のしかたについてくふうする。
小 6		・書くことによって考えを深めようとする。	・目的にかなう材料を集め、必要なことを落とさないようにまとめる。	・目的に応じた文章の組み立てをくふうする。	・必要に応じて詳しく書いたり簡単に書いたりする。 ・簡単ですじのとおった表現をする。 ・感覚的で効果的な表現をする。 ・語句の使い方をくふうする。	・書いた文章を読み返し効果的な叙述のしかたについてくふうする。
中 1		・自分の考えを確かにし、進んで文章を書くこととする。	・主題や要旨をはっきりさせ、それに合った材料を集める。 ・要点を明らかにし、必要な事がらを落とさないように整理する。	・全体の組み立てを考え、段落に分ける。	・場面や経過がよくわかるように具体的に書く。 ・文脈に即して、語句を適切に使い分ける。	・書いた文章を読み返し、表現を確かめて、文章をよりよくする。
中 2		・もの見方や考え方を広げ、自分の考えを大事にして文章を書くこととする。	・主題や要旨に照らして必要な材料を関連的にとらえる。	・段落の役割を考え、全体の組み立てを整える。 ・中心部分と付加的部分を区別する。	・事実と意見とを区別して正確に書く。 ・文脈にふさわしい語句を選んで書く。	・書いた文章を読み返し目的に応じた効果的な表現をくふうする。
中 3		・もの見方や考え方を深め、自分の考えをまとめて文章を書くこととする。	・はっきりした根拠のある材料を選ぶ。	・論旨をいくつかの論点に分け、適切な組み立てをくふうする。 ・目的や必要に応じた、ふさわしい形態を考える。	・事実や意見を正確に書く。 ・表現の効果を考え、語句の使い方をくふうして書く。	・よい文章の条件を考えて、文章をよりよくする。